

開催日時：平成 19 年 3 月 20 日（火） 17：00～18：40

開催場所：京都コンピュータ学院駅前校 新館 4 階

参加者：中川、桂田、藤関、直江、福本、小林、増田、桧山、土井、古川

配布資料：北海道新聞(2月4日：IT企業JVで活路)

議事

1. 前回以降の事業推進委員会、理事会関連報告

- ・ 19 年度の地域情報化委員会の事業計画及び予算は 2 月 20 日の委員会で議論した内容で了承され、3 月 30 日の総会に提示されます。
- ・ 事業推進委員会に小林さんの活動を了承してもらうとの件はOB会員(シニア会員)として事業推進委員会でも別途に動かれている(結果として小林さんの要望も実現できる)。理事会にも諮られて基本線は了解レベルに達している。

2. 小林氏から北海道情報システム産業協会の取組を紹介

- ・ 共同受注方法の一形態としてジョイントベンチャー方式の例を北海道新聞のコピーを引用しながら説明された。
- ・ JV方式に関しては北海道経済産業局も支援している。東京のIT関連開発をJV方式で受託するように営業活動をされている。JV方式での成功事例は現時点ではないレベル。

3. 大学との連携(リクルート活動)

- ・ 平成 20 年度の採用に向けての活動と長期的な視点での取組に分けて議論する。
- ・ 平成 20 年度の採用に関してはK V B Cの動きと個別企業レベルで連携する事で良いのではないかが結論。地域情報化委員会で平成 20 年採用に活動するコンセンサス確保及び立ち上がりタイミングとしては遅いが多数意見である。
- ・ IT関連の講座確保への動き、インターンシップでの学生受け入れ協力等に関してはまず大学コンソーシアム京都との議論を通じて可能性を探る事に決める。中川次期地域情報化委員会委員長を中心にアポ及び調整していただく事に決める。
- ・ 宮城県での優秀な人材確保に向けての活動項目と重なる部分が多い事も認識する。取組む方向性は共通認識できるが如何にルールをひくかである。小林氏が宮城県訪問の予定もあるのでもう少し詳しい取組事例の情報提供をいただける可能性が存在する。

4. 次年度の地域情報化委員会の体制

- ・ 中川委員長は決定済みであったが副委員長候補が提示され、承認された。
- ・ インフォニック(株) 福本 副委員長
(株)スリーエース 桧山 副委員長

以上